

第2回勉強会 議事概要

1 : 地下空間利用の実態と計画的位置づけ

○ 質疑 ● 意見

- これまで河川区域の地下利用について、河川管理者の懸念があるため縦断的・連続的に使われていなかったが、海外でも同様に使われていないのか。
 - ⇒ 第3回勉強会において、事務局から説明
- 世界的にみても、浸水リスク低減に向けた地下利用はほとんどなされていないと思われる。今後、地下空間活用を図っていくのであれば、他事業との兼用施設整備がコスト面から有効である。
- 地下利用は、浅い深度から順次利用され、後から利用する者は深い位置での整備となってしまう。ヘルシンキのマスタープランのように、誰が、どの地下を、どのように使うか、予め決めておくことも必要ではないか。

2 : 都市浸水対策における地下空間利用

○ 質疑 ● 意見

- 河川と下水道で連携して取り組む場合、対象とする降雨規模等が異なる部分を調整するための考え方について教えて欲しい。
 - ⇒ 河川と下水道では対象雨量や排水区・流域の大きさが異なるので整合を図るのは難しいが、洪水管理のオペレーションなど運用面での連携を行うことで効果があると思われる。
- 広島市の事例で、河川と下水道の役割や協力がどのようにされていたのか。
 - ⇒ 第3回勉強会において、事務局から説明
- 名古屋市の事例にある流下貯留型施設について、設計外力を超えて流下した際、リスクが極端に大きくなるような効果があると思うがどうか。
 - ⇒ 第3回勉強会において、事務局から説明
- 河川と下水道では、洪水管理のオペレーション段階で情報共有などの連携や、予測の高度化を含めないと、地下をいろいろな主体が組み合わせて使うのが難しいと思われる。